

飛躍

青森県内 輝いた高校生選手
 新たなステージへ



キャンに備え、打撃力強化のため、この冬もバットを振る川上竜平(18)市の光星高野球場

「結果に悩まず」 開花

野球 川上 竜平 光星→ヤクルト

高校球児ながら「甲子園は特に憧れの場所ではなかった」という。目標は「プロ一本だった。身長182センチの恵まれた体格を持ち、はるばる沖縄から野球留学した逸材は11年、その素質を大きく開花させ、夢への階段を一気に駆け上がった。実力選手をういの光星で入学早々にベンチ入り。重圧から、2年生までは気持ちや調子の浮き沈みが大きく、「結果が

出ないと、やる気をなく練習しない」と悩んでいた。仲井宗基監督(4)も「チーム最終学年になると、自分の野球がしっくりくるようになり、花が咲いた感じがした。試合では投打で目覚ましい活躍を見せた。特に、高校通算27本塁打のうち15本を3年春以降にマークし、チームメイトを驚かせた。川上は「自信を持ってプレーできていた」と振り返る。

最後の夏の県大会が間近に迫った昨年6月末、周囲から社会人チーム入りを薦められたが、「今、プロを目指さないと後悔する」と断った。迎えた夏の甲子園2回戦では連続本塁打を放ち、大勢のスカウトに長打力と俊足をアピールした。春からは「結果が全て」の厳しい世界に進む。入団するヤクルトからは、将来、球団を背負う選手としての期待を寄せられている。「自分がドラフト位だったことに、少しプレッシャーも感じている。不安を消すためにも、今はトレーニングするだけです。」

「日々成長」

言葉の通り、昨日より今日、今日より明日です。プレーしていて、昨日より今日の方ができていなかったら、嫌になりますよね。少しでも進歩して欲しい。最近になってですが、いい言葉になりました。



「球団の顔になる選手になりたい。今春、プロ野球のヤクルトに入団する川上竜平

かわかみ・りゅうへい 1993年5月8日、大阪府吹田市で生まれ、2歳で沖縄県那覇市へ。小学2年から野球を始め、仲井真中から光星高に進学。当初は捕手だったが、1年の冬に投手に抜てきされ、中堅手を兼任。昨年は主将として春夏連続甲子園出場。高校通算本塁打は27本で、うち3本を昨夏の甲子園で記録。11月のプロ野球ドラフト会議では、三拍子そろった選手としてヤクルトが1位指名、入団発表時に内野手登録。50メートル走は6秒1、遠投110メートル。182センチ、82キロ。右投げ右打ち。家族は両親、姉。A型。